

ばばだぜ 広島サンダース

久原 大輝

2017年に入団し、23年から3シーズンにわたって主将を務めた井上慎一朗。24年には左膝に大けがを負い、2度の手術を経験した。

4月19日に行われたホームゲーム最終戦。24年11月17日以来となるコートに復帰した瞬間、会場の空気は一変した。コートDJから「井上慎一朗」の名前がコールさ



井上選手の闘志受け継ぐ

れると、割れんばかりの歓声がアリーナを包み込む。その光景は、彼がどれほど愛され、必要とされてきた存在だったかを物語っていた。

プレー中、ボールに触る機会は決して多くなかった。しかし、コートに立てる喜びを表現する姿は非常に晴れやかで、見ている側の胸を熱くさせた。

リハビリ期間中、自分がプレーできない悔しさを押し殺しながら、仲間を鼓舞し続けた姿勢は、間違いないチームの支えだった。私自身、夏場に少しだけリハビリのお手伝いをしたが、前向きに取り組む姿に、こちらが勇気をもらっていた。

最後まで、チームのために尽くし続けた井上選手。その背中が残してくれたものは、勝敗以上に大きい。サンダースで培った経験を、これからの人生でも大いに発揮してほしい。そして彼が示してくれた「チームのために戦う姿勢」を、これからも受け継いでいきたい。

(広島マネジャー)

コートに復帰し、チームの得点を喜ぶ井上選手

(4月19日)